

シラバス情報

| | | | |
|------------|---|--|----------------------|
| 授業方法 | 講義 ・ 実験 ・ 実習 | | |
| 系 列 | 自動車工学 | | |
| 科 目 名 | シャシ構造1 | | |
| 必修・選択 | 必修科目 ・ 選択科目 | | |
| 対象学科 | 二級自動車整備科二輪自動車整備士コース | | |
| 年次学期・曜日・時限 | 1年前期 | 火曜日 | 5・6時限 |
| 時 限 数 | 24時限（中間及び期末試験を除く） | | |
| 担当教員名 | 川向 芳子 | | |
| 実務経験 | 有 ・ 無 | | |
| | 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となる二輪自動車シャシを構成する各装置についての講義を実施する。 | | |
| 授業の目的 | 二輪自動車のシャシ関連における各装置の部品名称、構造・機能、及びそれらの装置の作動について講義する。 | | |
| テキスト | ①三級二輪自動車（日本自動車整備振興会連合会 発行） ②二級二輪自動車（日本自動車整備振興会連合会 発行） ③基礎自動車工学（日本自動車整備振興会連合会 発行） | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 授業回数 | テーマ | 内容・方法等 | 使用テキスト 範囲 |
| 第1回 | 機械要素 | ボルト、ナット、座金、スプリングの種類、用途など基本的な内容について解説する。 | ③P.55～58 |
| 第2回 | 機械要素 | ベアリング、ギヤ、プーリ、ベルト、チェーンの種類、用途など基本的な内容について解説する。 | ③P.59～64 |
| 第3回 | 減速・増速 | 減速について基本的な考え方から応用まで解説する。 | ①P.66 |
| 第4回 | クラッチ機構 | クラッチの種類について解説する。 湿式多板コイルスプリング式クラッチについて構造を解説する。 | ①P.60～65 |
| 第5回 | クラッチ機構 | 湿式多板コイルスプリング式クラッチについて作動と操作機構を解説する。 | ①P.60～65 |
| 第6回 | トランスミッション | トランスミッションの種類について解説する。 常時かみ合い式のドッグ式について構造と作動を解説する。 | ①P.66～70 |
| | 中間試験 | 第6回までの授業内容に関する筆記試験 | ①P.60～70 ③P.55～64 |
| 第7回 | トランスミッション | トランスミッションの操作機構について解説する。 | ①P.66～70 ②P.66～68 |
| 第8回 | 駆動装置 | 駆動装置の種類について解説する。 ドライブチェーンについて解説する。 | ①P.71～72 ②P.66～68 |
| 第9回 | 自動遠心クラッチ ベルト式無段変速機 | ベルト式無段変速機の構造と作動、及び自動遠心クラッチについて解説する。 | ②P.61～65 |

| | | | |
|---------------|---|-------------------------------|-------------------------------------|
| 第 10 回 | 機械式ドラムブレーキ | 機械式ドラムブレーキの構造と作動について解説する。 | ①P.90～93 |
| 第 11 回 | 油圧式ディスクブレーキ | 油圧式ディスクブレーキの構造と作動について解説する。 | ①P.94～98 |
| 第 12 回 | フロントサスペンション | フロントサスペンションの種類、構造、作動について解説する。 | ①P.75～76 |
| | 期末試験 | 第1回～第12回までの授業内容に関する筆記試験 | ①P.60～98 抜粋 ②P.66～68 ③P.55～64 |
| 到達目標 | 二輪自動車のシャシ関連において、各装置の部品名称、構造、機能、作動を習得する。 | | |
| 成績評価方法 | 平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、中間試験並びに期末試験を合算して行う。 | | |
| 定期試験受験資格 | 開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。 | | |
| 成績評価基準 | <p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p>中間試験の点数 30% 期末試験の点数 40% 平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p>60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p> | | |
| 成績評価できない場合の基準 | 全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。 | | |